

日本で栽培されている米の種類

米は、北海道から沖縄県まで日本全国で作られています。

しかし、北海道や東北、北陸地方は、もともと亜熱帯を原産とする稻の栽培が難しい地域でした。栽培技術の発達や品種改良によって寒さに強い品種が開発され、これらの地域でも米が作られるようになりました。そのため、北海道と九州で育てられている品種は違います。北海道の品種は、ある程度の高温条件が続くと穂が出る(感温性)のに対して、九州の品種は日の差す時間が短くなるのを感じて穂を出す(感光性)のです。夏が短い北海道の稻は、育つ期間が1ヶ月も短く分けつする能力が高くて穂数が多いのですが、1本の穂につく種もみの数は少ないのが特徴です。

北海道

ななつぼし、ゆめぴりか、さらさら397

青森

まっしぐら、つがるロマン、青天の霹靂

秋田

あきたこまち、ひとめぼれ、ひとめぼれ、あきたこまち、めんこいな

岩手

ひとめぼれ、いわてっこ

山形

はえぬき、つや姫、

ひとめぼれ

宮城

ひとめぼれ、ササニシキ、まなむすめ

石川

コシヒカリ、ゆめみづほ、能登ひかり

富山

コシヒカリ、でんたかく、でんごもり

新潟

コシヒカリ、こしいぶき、ゆきん子育

福島

コシヒカリ、ひとめぼれ、天のつぶ

福井

コシヒカリ、ハナエチゼン、あささかり

岐阜

ハツシモ、コシヒカリ、ひとめぼれ

長野

コシヒカリ、あきたこまち、風やか

群馬

あさひの夢、コシヒカリ、ひとめぼれ

栃木

コシヒカリ、あさひの夢、なすひかり

茨城

コシヒカリ、あきたこまち、ゆめひたち

山口

コシヒカリ、きぬむすめ、つや姫

京都

コシヒカリ、ヒノヒカリ、キヌヒカリ

滋賀

コシヒカリ、キヌヒカリ、日本晴

大阪

ヒノヒカリ、キヌヒカリ、きぬむすめ

奈良

コシヒカリ、キヌヒカリ、みえのゆめ

三重

コシヒカリ、ヒノヒカリ、ひとめぼれ

香川

ヒノヒカリ、コシヒカリ、おいでまい

和歌山

コシヒカリ、キヌヒカリ、ミネアサヒ

山梨

コシヒカリ、あさひの夢、ひとめぼれ

東京

コシヒカリ、ふざごね、ふざおどめ

千葉

コシヒカリ、ふざごね、ふざおどめ

沖縄

ひとめぼれ、ちゅらひかり、ミルキーサマー

バケツ稻づくりセットの米の品種

バケツ稻づくりセットの種もみの品種は、手間はかかりますが食味が良い「コシヒカリ」です。現在、日本で最も多く作られている品種です。

※都道府県指定の品種を使用する地域もあります。

監修：安東 郁男（国立研究開発法人 農研機構 次世代作物開発研究センター ゲノム育種研究統括監 農学博士）

バケツ稻の育て方やセットなどで分からることがありましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。

バケツ稻づくり事務局

〒110-8722 東京都台東区秋葉原2-3 日本農業新聞ビル TEL03-5295-1323 FAX03-5295-7491

バケツ稻 で 検索 

バケツ稻づくり事業は、JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として実施しています。